

2017年2月27日

企業会計基準委員会とフランス国家会計基準局の代表者が東京で会合を開催

企業会計基準委員会
フランス国家会計基準局

企業会計基準委員会（ASBJ）とフランス国家会計基準局（Autorité des Normes Comptables: ANC）の代表者は、2017年2月27日に、東京で会合を開催しました。

会合では、お互いの活動の最新の状況を確認するとともに、協力の可能性について意見交換を行いました。また、ASBJとANCは、技術的なテーマとして、IFRSの公表済みの新しい基準及び今後公表予定の基準（保険契約、リース、及び収益認識を含む。）の適用上の論点について意見交換を行いました。さらに、純利益及びOCIを巡る論点に関して、両者がどのように協働できるかについても議論しました。

小野行雄ASBJ委員長は次のように述べています。

「今回、ANCの代表者と東京で会合を開催できたことを大変喜ばしく思っている。IFRSの新基準の適用上の論点について見解を共有できたことは、非常に有意義なことである。高品質な財務報告に貢献していく1つの方法として、ANCとASBJとの間の有意義な関係を維持し、さらに強化していくことが重要であり、純損益及びOCIに関する作業にも期待している。」

パトリック・デ・カンブールANC委員長は次のように述べています。

「最初に、国際的な会計基準に関する技術的な論点について、深度ある議論を行う機会を得られたことについて、ASBJ委員長に感謝を申し上げたい。私は、このような2者間協議は、堅牢でより有用な基準に貢献するものと確信している。昨年12月にパリで開催されたANC会計リサーチ・シンポジウムにおいて、ASBJはEFRAGやIASBといった他の主要な基準設定主体と同様に、非常に有益な発表をしていただいた。その発表を契機として現在共同で取り組んでいる「OCIの役割」共同プロジェクトにも示されるように、ANCとASBJは財務報告及びIFRSの適用について多くの見解を共有している。」

企業会計基準委員会（ASBJ）について

ASBJは、2001年7月に民間部門の機関として設立された。ASBJが開発した会計基準は、金融庁により一般に公正妥当と認められた企業会計の基準として認められることとなる。ASBJは、企業が活動している環境を適切に反映した会計基準及び適用指針を開発している。ASBJは、海外の会計基準設定主体とコミュニケーションを取り、グローバルな会計基準の開発に貢献している。ASBJに関する詳細な情報は、ホームページ <http://www.asb.or.jp/> をご参照いただきたい。

フランス国家会計基準局（ANC）について

フランス国家会計基準局（ANC）は、2010年の初めに財務省に係る独立の機関として設立され、民間企業及び非営利組織のための会計規則について責任を有している。ANCの理事会は16名の財務及び会計の分野に精通した委員より構成され、広範で多様な見解を代表している。ANCは、フランス企業のための法的権威ある会計基準を作成し、国家当局が公表する会計に関する事項を含むあらゆる法律又は規定の条項に関して助言を行っている。ANCはまた、国際的な会計基準に関する意見書を公表し、EFRAGやARCのような欧州の団体を通じて国際的な会計基準の欧州への導入に参加する責任を有している。さらに、ANCは、フランスにおける会計に関するリサーチを促進し振興している。ANCに関する詳細な情報は、ホームページ www.anc.gouv.fr をご参照いただきたい。